

要 望 書

国道 3 号植木バイパス

の整備促進について



「平成 2 8 年熊本地震」直後の一般国道 3 号（植木 I C 付近）

令和 4 年 8 月

国道 3 号植木バイパス建設促進期成会

国道3号植木バイパス の整備促進について

「国道3号植木バイパス」は恒常的な交通渋滞の解消のみならず、熊本都市圏と県北部地域を結び経済や社会活動を支えるなど、地域活性化のために極めて重要な役割を期待されており、当期成会のほか地域住民や山鹿市の経済団体などでも期成会等が設立されるなど、早期全線整備に対する切実な願いが届けられているところです。

本バイパスは、これまで全延長9.3kmのうち5.6km（熊本市北区植木町鞍掛～同北区四方寄町）について事業化されており、平成23年4月に国道208号以南の2.3kmが部分供用されました。これにより渋滞が緩和され、救急医療施設までの所要時間の短縮による救命率の向上などのストック効果が生まれています。

また令和3年4月に、平成29年3月に一部暫定2車線による供用が開始された熊本西環状道路と国道3号熊本北バイパスを結ぶ0.9kmの令和4年度開通の見通しが発表されたところですが、このことにより熊本環状道路におけるミッシングリンクが一部解消されるなど、国道3号植木バイパスの整備効果はさらに高まることが期待されているところです。

他方、平成28年熊本地震では主要な幹線道路が被災・寸断し深刻な交通渋滞が発生しました。特に九州縦貫自動車道植木IC～八代ICの通行止めにより一般道に車両が流出したことで、国道3号の植木IC付近において最大16.4kmの渋滞が発生し、県北方面からの災害支援や支援物資の運搬に支障が生じました。さらには、長崎・佐賀方面からの支援ルートである国道501号には南関ICや菊水ICからの迂回車両が流入したことで、熊本都市圏内の主要道路が麻痺状態となり、緊急車両等の通行にも大きな影響が生じました。

このような経緯から、本バイパスは災害発生時における九州縦貫自動車道の代替機能・ダブルネットワーク機能の強化に資する非常に重要な路線であると確信したところであり、熊本都市圏の渋滞緩和にも大きく寄与するものであることから、事業化区間の早期供用及び未事業化区間である3.7km（熊本市北区植木町鞍掛～同北区植木町亀甲）の事業化は必要不可欠です。

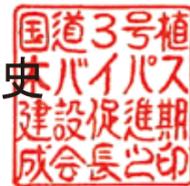
つきましては、次の事項について特段の御配慮をお願いいたします。

- 国道3号植木バイパス事業区間（5.6km）の早期整備を図ること。特に、未供用区間（3.3km）の早期供用開始に向け取り組むこと。
- 国道3号植木バイパス未事業化区間（3.7km）の早期事業化を図ること。
- 国道3号植木バイパスの整備のため、必要な予算を確保すること。
- 社会資本整備に必要な公共事業関係予算を増額するとともに、令和5年度道路関係予算は所要額を確保すること。
- 防災・減災・国土強靱化のための5か年加速化対策に必要な予算の確保と、5か年加速化対策後も予算・財源を通常予算とは別枠で確保して、継続的に取り組むこと。
- 災害時でも安定的な人流・物流の確保に向けた高規格道路のミッシングリンクの解消やダブルネットワークの構築等を行うこと。
- 道路整備に加え災害時の現場対応や自治体支援において大きな役割を担う地方整備局等の人員を拡充し、体制強化を図ること。

令和4年8月

国道3号植木バイパス建設促進期成会

会長 熊本市長 大西 一史



国道3号植木バイパス



国道3号植木バイパス建設促進期成会

会	長	熊	本	市	長	大西	一史			
副	会	山	鹿	市	長	早田	順一			
副	会	玉	名	市	長	藏原	隆浩			
理	事	玉	東	町	長	前田	移津行			
理	事	南	関	町	長	佐藤	安彦			
理	事	和	水	町	長	石原	佳幸			
理	事	熊	本	市	議	会	議	長	原	亨
監	事	山	鹿	市	議	会	議	長	服部	香代
監	事	玉	名	市	議	会	議	長	近松	恵美子